

平成26年度 旧栄養食配給所等修復調査結果の概要

調査の内容

本調査は、旧川越織物市場を含めた修復・活用計画を立案するに先立ち行われたものである。主に、間取りや構造の現状把握、痕跡調査、そして旧栄養食配給所についての資料調査、聞き取り調査を行った。

旧栄養食配給所とは

栄養食配給所は、**工場食の栄養的改善を目的**に昭和初期を中心に全国的に設立されたものである。

旧川越栄養食配給所は、**平成17年(2005)に川越市指定文化財に指定**されており、全国的に数少ない遺構である。建物が空き家となって十数年が経ち、建物の老朽化が進んでいるが、当時の姿をよく残している。

旧栄養食配給所の沿革

- 明治43年(1910) 事務所部分建築
- 昭和9年(1934) **栄養食配給所開業** 作業場増築
- 昭和14年(1939) 住まい等増改築
- 昭和20年(1945) **栄養食配給所閉鎖** 栄養食配給所が最も栄えていた時代と考えられる
- }
数度の改造を行いながら、住居として使用
- 平成14年(2002) 川越市所有

栄養食配給所としての機能

昭和初頭の川越は、織物や生糸関係が工場生産へ転換し、そこで働く労働者が増加していた。その労働者に対する食糧供給を行っていたのが、旧栄養食配給所である。

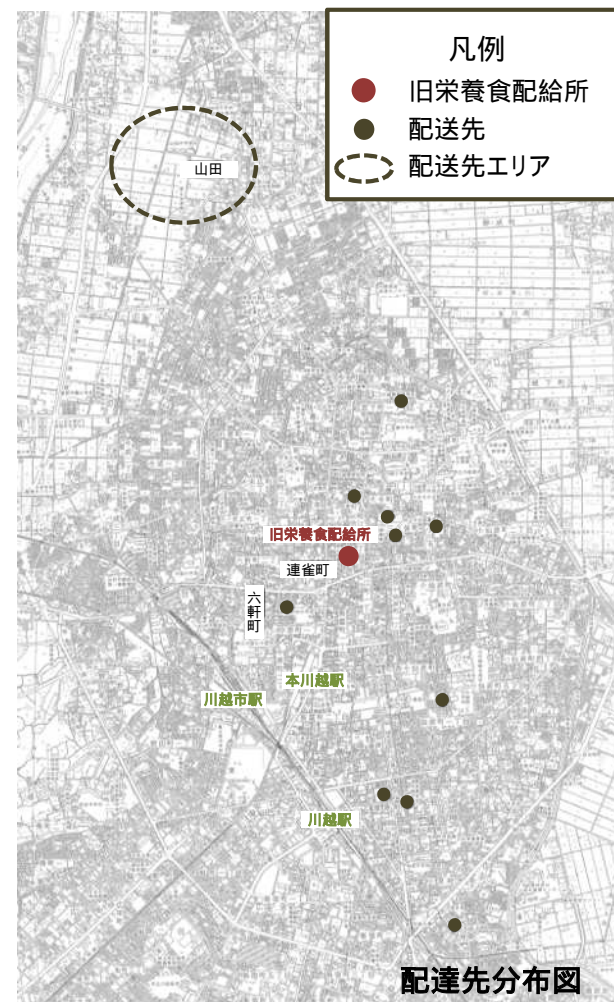
旧栄養食配給所は、配給先である工場を中心部に位置していることや川越織物工業組合関係所有の地であったこと、井戸水が豊富に得られたことなど、栄養食配給所の成立要件を満たしていたため、当該地に設立されたと考えられる。

建物は数度増築されているが、調理用のカマドの増設もその度に行われており、次第に盛況になった様子を読み取れる。

現在も、直径90cmを超えるカマドが、一列に7基残されており、当時の姿をそのまま残す遺構としては全国的にも唯一のものと考えられ、**文化的、社会的意義が極めて高い近代化遺産**といえる。

旧栄養食配給所

所在地	川越市松江町2丁目12番地4
用途地域	商業地域
防火地域	準防火地域
容積率、建ぺい率	容積率400% 建ぺい率80%
延床面積	177.47m ²



平成26年度 旧栄養食配給所等修復調査結果の概要

全国の調査結果

栄養食配給所の存在の可能性がある自治体に対して、残存状況に関するアンケート調査を行った。(全国67ヶ所の栄養食配給所が対象)

結果、現時点で残存が確認できる栄養食配給所は旧川越栄養食配給所のみであり、アンケート調査対象外であった**深川栄養食配給所(江東区)を含めると2ヶ所のみ**である。

とりわけ、**建物内部の様子や当時実際に使用されたカマドを残す遺構は旧川越栄養食配給所のみである。**

修復方針

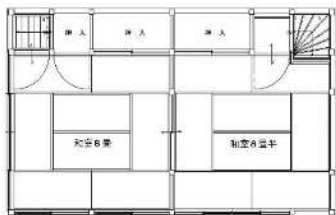
修理復原する時代設定は、旧栄養食配給所が栄えており、根拠が明確である**昭和14年の増築時とすることが最良**と考えられる。

建物は、作業場に関しては一旦解体して部材を修理して再び組み立てる全解体工事とし、2階建ての住まい部分は軸組を残す半解体工事が望ましい。

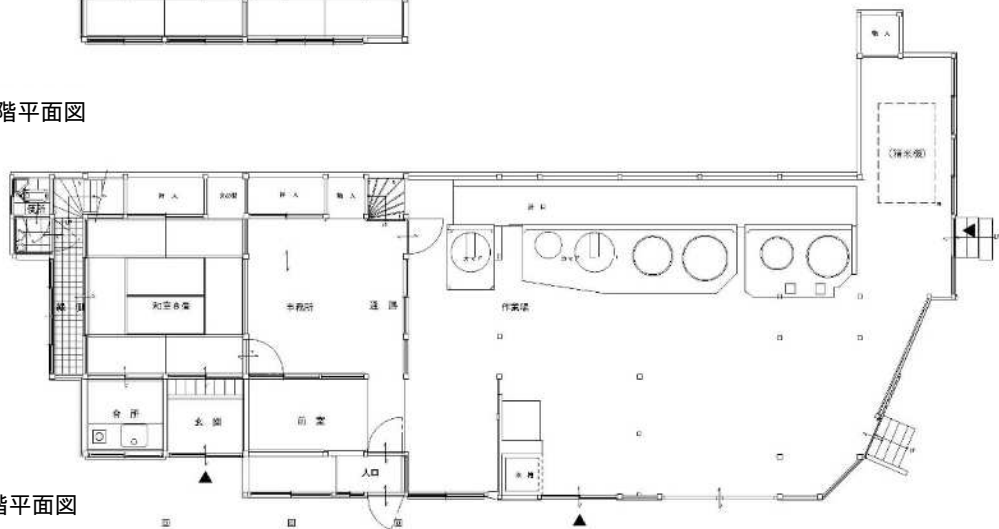
西側の隣地境界線と建物が接近しているが、建物を移動するためにはカマドの移動が伴うため、建物の位置を動かさない方が望ましい。



住まい及び作業場

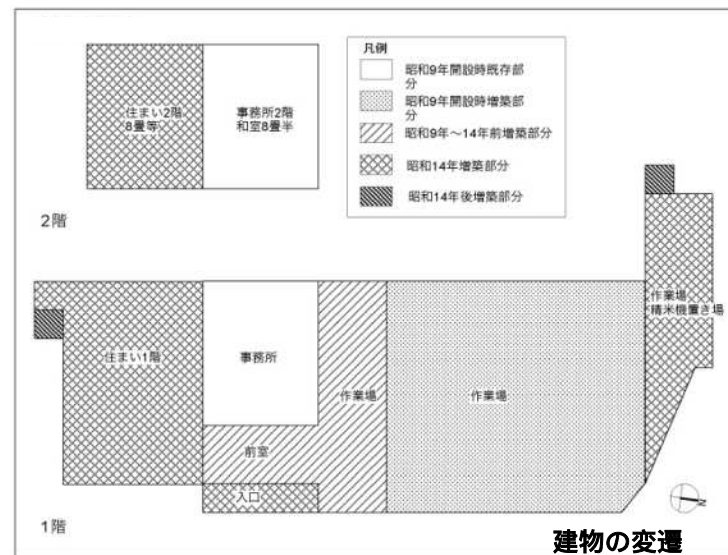


2階平面図

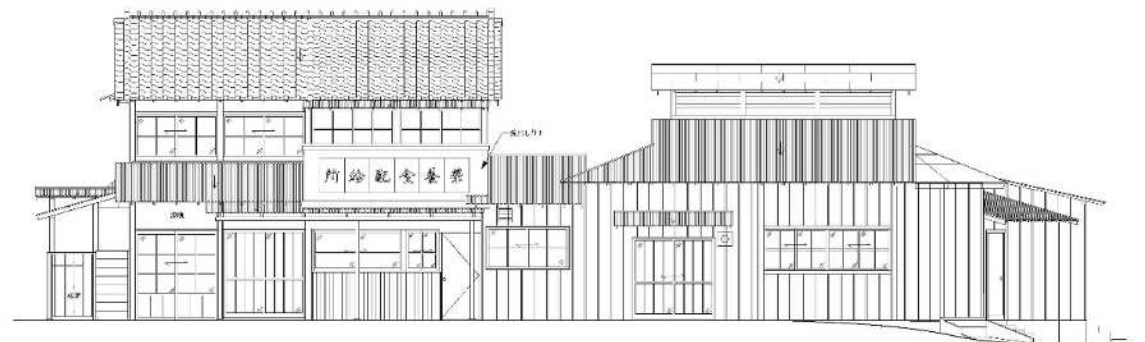


1階平面図

復原平面図



建物の変遷



復原東立面図